

第37回 徳島県新型コロナウイルス感染症対策本部会議

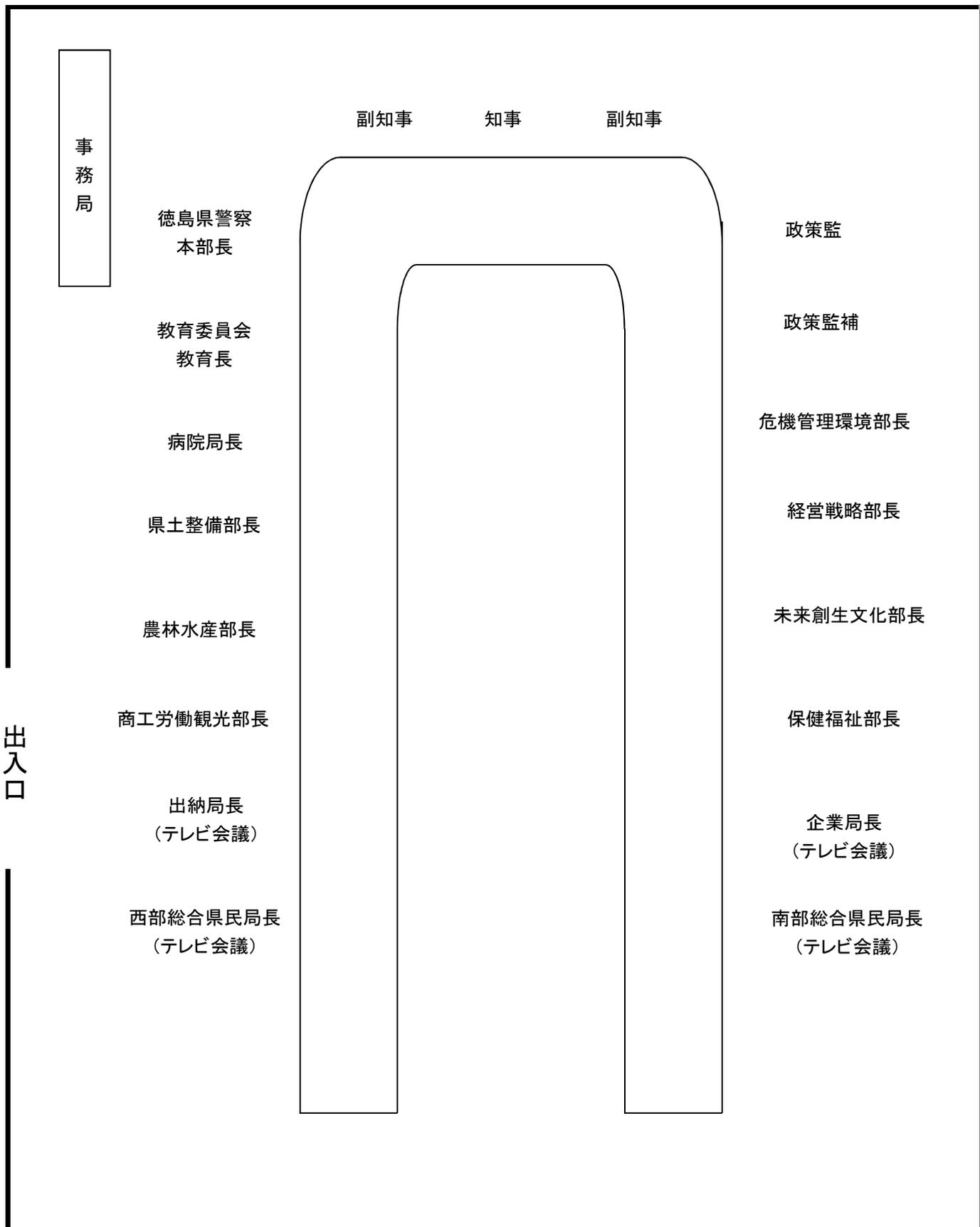
(徳島県新型インフルエンザ等対策本部会議)

日 時：令和2年12月20日（日）
15時15分から
場 所：県庁3階 特別会議室

◎協議事項

- 年末年始の対応について

徳島県新型コロナウイルス感染症対策本部会議 配席図



1. 本県における感染状況について

- 10月の徳島大学クラスター以降、新たなクラスターの発生はなし。
- 「県外由来」による弧発事例や「家庭内感染」が散見される。

(徳島県における月別新型コロナウイルス感染症患者発生数)

(単位:人)

	計	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
計	191	1	2	2	0	1	20	107	15	16	17	10

(11月、12月における患者発生状況)

(単位:人)

期間	11月				12月		
	第1週	第2週	第3週	第4週	第1週	第2週	第3週
人数	3	4	8	2	5	2	3

2. 全国における感染状況について

- 1日当たりの感染者が3千人を超える日があるなど、「過去最多の水準」が続いている。
- 「首都圏」、「関西圏」、「中部圏」はもとより、これまで大きな感染が見られなかった地域で新たに「感染拡大」や「再拡大」の動きが見られ、全国的に感染が拡大することが懸念される。

【参考】

- ・対人口10万人当たり25人[ステージⅣの指標]を超える都道府県
東京都・大阪府
- ・対人口10万人当たり15人[ステージⅢの指標]を超える都道府県
北海道・埼玉県・神奈川県・愛知県・京都府・兵庫県・広島県・高知県
- ・対人口10万人当たり10人以上かつ直近1週間とその前1週間の比が倍以上の都道府県
宮城県・熊本県

出典:厚生労働省「第18回新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボード(12月16日)」

3. 注意を要する事項

- 感染リスクが高まる「5つの場面」については、引き続き注意が必要。

場面① 飲酒を伴う懇親会等	場面② 大人数や長時間におよぶ飲食
場面③ マスクなしでの会話	場面④ 狭い空間での共同生活
場面⑤ 居場所の切り替わり	

- 「マスクの着用」、「3密の回避」、「手指消毒・うがい」など、基本的な感染防止対策を徹底。
- 感染が拡大しているエリアからの帰省や旅行については、「慎重に検討」。特に発熱等の症状がある方などは帰省や旅行を控える。

4. 年末年始における診療検査体制について

- 年末年始における医療体制を確保するため、県医師会と協力し、「診療・検査協力医療機関」において、「年末・年始も対応できる体制」を構築済み。
また、入院についても、「入院受入医療機関」と協議済み。
- なお、年末・年始において「かかりつけ医」が休診の場合には、「受診・相談センター」(24時間対応可)で、対応可能な「診療・検査協力医療機関」をご紹介。

「受診・相談センター」 電話番号 0570-200-218

＜感染状況について＞

- ・ 全国の新規感染者数は、一度高止まりした後、直近で増加に転じており、過去最多の水準が続いている。首都圏、関西圏、中部圏では、感染者数の明らかな減少は見られない。また、これまで大きな感染が見られなかった地域で新たに感染拡大や再拡大の動きが見られ、その他の地域も含め全国的に感染が拡大することが懸念される。

実効再生産数：全国的には1をわずかに上回る水準となっている(11月29日時点)。東京等首都圏、愛知、兵庫などで1週間平均で1を超える水準となっている(11月30日時点)。

- ・ 一般の感染拡大では新規感染者数の規模が大きく、高齢者の絶対数も多くなっている。これに伴い、入院者数、重症者数の増加が続いており、医療提供体制及び公衆衛生体制への負荷が増大するとともに、死亡者数が増加傾向となっている。60才以上の新規感染者割合の上昇も見られ、今後も重症者の増加はしばらく続くおそれがあり、死亡者数のさらなる増加も懸念される。対応を続けている保健所や医療機関の職員はすでに相当に疲弊しており、予定された手術や救急の受入等の制限や、病床を確保するための転院、認知症や透析の必要がある方など入院調整に困難をきたす事例など通常医療への影響も見られており、各地で迅速な発生時対応や新型コロナウイルスの診療と通常の医療との両立が困難な状況が懸念される。

【感染拡大地域の動向】

- ①北海道 新規感染者数は減少傾向が見られるが、札幌市と旭川市を中心に感染者の発生が継続。多くは病院・施設内、学校関連の感染。札幌市は感染者の減少により保健所機能は逼迫を脱しつつある。旭川市では通常の医療に影響がでており、厳しい状況が継続。
 - ②首都圏 東京都内全域で多くの感染者の発生が継続しており、医療機関は非常に厳しい状況が継続。重症者の受入が困難になりつつある。また、病床確保のため、通常の医療を行う病床を転用する必要性が生じてきている。首都圏全体では、埼玉、神奈川、千葉でも感染拡大により医療提供体制が厳しい状況。また、東京、千葉、神奈川は新規感染者数がいったん減少したが、再度増加に転じている。埼玉は、新規感染者数の明らかな増加傾向が継続。
 - ③関西圏 大阪では新規感染者数が高止まりから微減の状況だが、依然高い水準。大阪市外での新規発生が徐々に増加。重症者数の増加も継続し、医療提供体制の厳しさが増大。院内感染と市中での感染が継続。感染経路不明割合は約6割。兵庫でも感染が継続。医療提供体制が厳しい状況。京都などでも増加傾向が見られる。奈良でも感染が継続。
 - ④中部圏 名古屋市とその周辺で感染が拡大。名古屋市では新規感染者数が高止まりし、減少傾向が見られない。福祉施設、職場などでの集団発生も生じている。医療の提供体制が厳しい状況。岐阜県でも感染が拡大。
 - ⑤沖縄県 新規感染者数は減少傾向であるが、感染が継続。日常的な会食や職場などへと感染の場が広がりがつつある。医療提供体制が厳しくなりつつある。
- ※この他、宮城、群馬、広島、高知、福岡、熊本、大分などこれまで大きな感染が見られなかった地域でも、新たな感染拡大や再拡大の動きが見られる。

直近の感染状況の評価等

<感染状況の分析>

- これまでの感染拡大は大都市圏中心であったが、地方でも感染の拡大が見られるようになってきている。東京は過去1週間で全国の感染者の約20%、大阪は15%近くを占め、この2つで全国の感染者の1/3を占めている。さらに北海道・埼玉・千葉・東京・神奈川・愛知・京都・大阪・兵庫で全国の約75%を占めている。人口規模の大きいところでも感染が維持・拡大し、それに続き、地方でも感染の拡大が見られはじめている。大都市における感染を抑制しなければ、地方での感染を抑えることも困難になる。大都市における感染拡大・継続を直ちに抑制し、地方での感染拡大も阻止する必要がある。
- 直近の感染拡大では、特に地方において忘年会・パーティーなどの会食や接待を伴う飲食店に関連したクラスターが増加している。海外でも飲食をする場面が感染拡大の場としてすでに特定されていく。また、12/3のアドバイザーボードの資料2-3にもあり、飲食店が感染リスクの高い場として報告されている論文もある(Chang S, et al. Nature 2020)。札幌では歓楽街の営業時短を早期に行うことにより感染者が減少する可能性が示されている。一方で、東京などの大都市では飲食店に不特定多数が来店するため、リンクを追うことが難しく、感染源として特定されにくい特徴がある。従って、こうした場所が感染の継続に関与している可能性がある。
- また、飲食などの社会活動が活発な20-50才台の世代の感染は、その他の世代と比べると多い。この世代では感染しても無症状あるいは軽症のことが多いため、本人が意識しないまま感染拡大につながり、それが、家庭内、医療機関や高齢者施設等での感染に繋がっており、重症者が増加している要因にもなっていると考えられる。

<必要な対策>

- 感染が拡大している地域においては、既に様々な対応が取られているが、感染状況が改善しない場合には、酒類を提供する飲食店などの時短要請範囲等も含めて取組の強化を検討する必要がある。
- これまで大きな感染が見られなかった地域でも感染の発生が見られており、特に比較的医療提供体制が弱い地域ではその体制が急速に悪化し、急速な感染拡大が起こりうるため、宿泊療養施設を含め医療提供体制の準備・確保等を直ちに進める必要がある。
- 年末年始に感染が増加することで、医療提供体制全体の危機を招く可能性もある。感染状況を踏まえた適切な対策の速やかな実施や対策の準備を進めて行くことが求められる。また、市民の皆様にも新年会や忘年会、帰省などで感染拡大を起さず、静かな年末年始を過ごしていただくことが必要であり、適切なメッセージを発信していくことが求められる。
- これまでの分科会から政府への提言も踏まえ、12月14日の政府対策本部で年明けまでを見据えた対策の強化策が示されたところであり、今後、これらの取組による効果を見直し、感染状況の評価・分析を進めて行く必要がある。その上で、効果が不十分であれば必要な対応を検討することが求められる。

「ご自身」と「大切な人」と「ふるさと」を守るために

～ 年末年始の過ごし方 ～

年末年始の時期を迎えましたが、全国の新型コロナウイルス感染者の発生数は依然として高い水準で推移しており、医療がひっ迫する深刻な地域も生じるなど、感染拡大の勢いが止まらない状況となっています。

このような困難な状況の中、我々都道府県知事は、お互いの成功事例を参考にしながら知恵を絞り、最善の保健医療行政を展開して参りますが、国民の皆様におかれましては、感染拡大防止に向けた格別のご協力をお願い申し上げます。

本来であれば、一年を締めくくり、また、新しい年を迎え、大切なご家族や友人と「ふるさと」で穏やかに過ごす期間ですが、**今が肝心な時です。力を合わせて感染拡大を防ぎ、「ご自身」・「大切な人」・「ふるさと」を守りましょう。**

○マスクなどで予防を徹底し、年末年始は静かに過ごしましょう！

ウイルスは親しい間柄こそ狙い撃ちして感染を広げます。人が集まることの多い時期ですが、家族や友人との間でもマスクをしたり、こまめな手洗いをするなど予防を徹底し、初詣も含め、「三密」を避け、移動時期も分散し混雑を避けるほか、普段顔を合わせない人との会食を控えるなど、年末年始は静かに過ごしましょう。

○帰省や旅行によって感染を広げないように慎重に行動しましょう！

居住地や行き先の都道府県が出しているメッセージや感染状況を確認し、特に感染が拡大している地域とそれ以外の地域との間の帰省や旅行については、今一度必要性についてご家族などと相談し、今回は控えることも含め、慎重に行動しましょう。

その上で、お出かけされる際には、感染防止対策をしっかりと講じるとともに、接触確認アプリ「COCOA」を利用し、また、帰省先や旅行先で感染・発病した場合は、感染拡大防止のためにその地域の保健医療当局に協力してください。

全国知事会では、各都道府県のメッセージを取りまとめていますので参考にしてください。
(www.nga.gr.jp/data/activity/committee_pt/shingatakoronavirusukinkyutaisakukaigi/reiwa2nendo/1608276290289.html)

○会食の際は飛まつ感染リスクに十分注意しましょう！

会食の際の飛まつによる感染やクラスターの発生が、現在全国で多発しています。深酒や大騒ぎは避け、会食の場でも会話時はマスクを着用するほか、「少人数」、「短時間」、「斜め向かい席」などの工夫を行い、ガイドラインを遵守したお店を選ぶなど、感染リスクに十分注意し賢く楽しみましょう。

○新型コロナウイルス感染症に関する偏見・差別は絶対にやめましょう！

感染者自身のほか、感染者が発生した団体に属する人、県外から帰省された方等に対する誹謗中傷や差別はあってはならないことであり、さらにSNSやうわさ話などデマによるいわれのない偏見や差別につながるような行為は絶対に行わないようにしましょう。

令和2年12月20日

全国知事会



新型コロナウイルス感染予防について ～年末年始は静かに過ごそう!～



感染リスクが高まる「5つの場面」に注意しましょう!

内閣官房新型コロナウイルス感染症対策推進室より



1 飲酒を伴う懇親会等
回し飲みや箸などの共用に注意!



2 大人数や長時間におよぶ飲食
大きな声での会話を控える!



3 マスクなしでの会話
近距離での会話は特に注意!



4 狭い空間での共同生活
トイレなどの共用部分での感染に注意!



5 居場所の切り替わり
休憩室や喫煙所、更衣室でも対策が緩まないように!

★店舗をご利用の際は、「事業者版スマートライフ宣言」や「ガイドライン実践店ステッカー」の確認を!

休暇の分散取得にご協力ください!

年末年始の時期は、帰省や旅行が集中し感染リスクが高まります

県民の皆様 帰省や旅行の分散に、ご協力をお願いします

事業者の皆様 従業員の休暇の分散取得に、ご協力をお願いします

感染が拡大している地域との往来は慎重に!

- ホームページ等で訪問先の情報を確認、当該都道府県の要請に沿った行動を!
- 訪問先での飲食の際は、感染防止対策実践ステッカー・宣言書等の確認を!

来県されるご親戚や友人がいらっしゃる場合

体調を確認いただき、体調が優れない方は来県を控えていただくよう要請を!

新型コロナウイルス感染症に関する偏見・差別は絶対にやめましょう!

